

ひどいリバウンドを毎日の電話診療と家族のサポートで
乗り切った方の手記

「指がかゆくなくなった！」

アトピー完治・突発性難聴途中経過」

藤後 秀之 40 歳

2015 年 10 月 28 日

アトピーの始まりは小学4年でした。両手がしもやけのようになり、水疱が
でき始めました。その時は、すぐ治ると思い、まさか20年以上苦しめられると
は思いもしませんでした。

親と一緒にいった病院では、ステロイド（リンデロンだったと思います）を
処方されました。始めはあっという間に症状が治まって、「すごい！」と思っ
たけれど、長く使うにつれて効果が薄くなり、手指だけだった症状が、汗をかき
やすい首、肘、膝、股関節にまで広がっていました。

夏はジुकジुक、冬はボロボロ。このときは自身の身体を恨みました。何
より辛いのは痒みです。「何をしてもメンドクサイ」、そんな状態で、ずっと
水疱をつぶして気を晴らしていました。どうしても痒みが我慢できない時は、熱
湯に手を突っ込んでいました。痒みを痛みに変えることで我慢していたのです。
身体に悪いと周囲から言われましたが、痒みに比べればよっぽどマシでした。
この生活が延々と続きました。

自分の身体を誤魔化しながら高校、大学を卒業し、就職しました。このまま
乗り切れるかと思っていましたが、入社2年目で身体に大きな異変が起こりま
した。夜中に耳元でピーッ！と鳴り続ける鋭い音がするようになりました。突
発性難聴でした。すぐに大病院に入院しました。

当時診てくれた担当医の表情が絶望的だったことは、今でも印象に残ってい
ます。検査結果は相当悪く「最重度」、数値化すると200dBでした。（ダンプカ
ーのクラクションも聞こえない状態だそうです）。

不安に駆られながら治療を開始しました。治療方法は大量のステロイドを毎
日点滴することでした。心配だけど他に選択肢はありませんでした。幸いなこ
とに1週間ほどで中程度まで回復しましたが、そこから横ばいのままで、結局

2週間で退院することになりました。

担当医とのやり取りは今でも忘れられません。突発性難聴の原因を尋ねたのですが、「原因は不明で 何故治るか不明だけど 昔ながらのステロイド点滴を採用した。ここまで回復したのは奇跡的。」との回答でした。「何故治るかはわからない」と聞いて絶句しました。

「さてどうするか」と考えたときに、地元であるJR高槻駅の近くに漢方を使う病院があったことを思い出しました。それが松本医院でした。そして、意を決し訪問しました。

院内に入ると漢方薬の濃い匂い。そして受付を終え待合室で待っていると、突然、診察室から怒号が聞こえてきました。あれは驚きました。「どうやら先生が患者を叱っているらしい。しかも1度や2度じゃない。これはとんでもない病院に来たぞ」と思ううちに、自分の診察の番になりました。

松本先生に初めてお会いしたときは強烈なインパクトだけあったと覚えています。ステロイドを使用していたことや何やら色々叱られて、そして最後に一言、「必ず治してあげるから」と言われました。あの時の目の強さは印象的でした。（自分の免疫が治すということを理解した上での先生とのやりとりです）

それから漢方薬での治療が始まりました。せんじ薬と入浴剤、赤い軟膏に消毒液を処方されました。他の患者さんの手記を読んで長丁場になることは覚悟していましたので、気長に良くなるのを待つつもりでいました。一番ありがたかったのは、「痒いときはバリバリ搔いても松本医院の消毒液（ネオヨジ）を使えばよい」と言ってもらえたことでした。

それから数年の間、苦しい時期もあったけれど、リバウンドも余り酷くなく、症状は軽快していっているように思っていました。ただ、先生からは、「いつどんなリバウンドが来るかは予想できない」と毎回言われていました。他の患者さんの手記を読んでも結構強烈なリバウンドがあったと書かれている方が多かったので、「自分もそのうち来るのかな」と何となく考えていました。

事態が急変したのは今から2年前の夏のある日でした。引っ越しして一人暮らしを始めた頃です。何故だか顔が熱く、鏡を見ると顔に無数の赤い斑点ができていました。しばらくすると落ち着いたのですが、それから毎日、突然顔が腫れあがる症状が続きました。それから日を追うごとに症状が悪化しました。熱が出るだけでなく、顔や首回り、そして右腕がボンレスハムみたいにパンパンに膨れ上がり、皮膚がはち切れそうになりました。朝起きて出社するとみんなに心配されるような日々でした。「とうとう来たんですね、派手なリバウンドが」そんな気持ちでした。そして痛みでどうにもならない状態になり松本先生に電話相談した結果、自宅療養をしようと思えました。

戦いの日々が始まりました。毎日、先生に体温を報告し、抗生物質と漢方薬の治療を続けました。リバウンドの辛さは想像を絶するものでした。熱は38℃前後から変化せず、顔、首、両腕がパンパンに膨れ上がって変形しました。四六時中痛みがあり、皮膚が切れてかさぶただけで痒く、痒みと痛みで寝るこ

ともままなりませんでした。このときが一番つらかったです。外出もできないので母に頼んで食事の手配をお願いしました。親のありがたみを痛感させられました。そして、先生との電話は治療のためだけではありませんでした。自分が一人でないことを毎日気づかせてくれたのです。先生がよく診察室で電話を受けていることを思い出して、「ありがたいことだな」と一人納得していました。1週間を経過した頃、症状は改善の兆しを見せました。熱は37℃前半まで下がり、顔の症状は収まって、瘡蓋（かさぶた）だけになりました。しかし代わりに足が腫れ上がりました。これが曲者で、歩くと症状が悪化しました。トイレに行くたびに症状が悪化するとか勘弁してほしいと思いました。ただ、峠は越えたようで、「生きていれば何とかなるさ」と思って結構気楽に過ごしていました。そして闘病生活も1か月ほど過ぎたころ、全身瘡蓋ボンレスハムの生活が無事乗り切って、一般の生活に戻ることができました。

何とも難儀な1ヶ月でしたが、良い方向で新たな身体の変化が起こっていました。一つは指先のアトピー症状が出なくなったことです。痒くないのです！まさかこんなにストレスない状態になるとは夢にも思いませんでした。関節部位もきれいなもので、今でも自らの手指や腋などの関節部位を見ると、よかつたなあと思います。あとは肌ツヤが良くなり、皮膚が丈夫になったことですね。会社のパートさん曰く、ゆでたまごの殻を剥いた感じらしいです。10年近く漢方薬を飲んで体質が変わったのでしょね。

現在の僕はアトピーを乗り越えたので、難聴を治療すべく漢方薬を処方していただいています。また長い時間がかかるかもしれませんが、自身の免疫力を信じて気長に取り組もうと思います。松本先生には只々感謝するばかりです。まだまだお世話になりたいと思っていますので、どうぞよろしく願いいたします。

最後になりましたが、僕の手記に最後まで目を通して頂いたみなさんに、お礼申し上げますと共に、長く健康に過ごせますようお祈りいたします。ありがとうございました。